

眺

東堀区と
西堀区で



欲求が生むものづくりを

京大生らが自転車を題材に体験

南宮のインダストリー ネットワークなど企画

岡谷市南宮一にある インタストリーネット ワーク(大橋俊夫社長)と京都大学術情報メ ディアセンター喜多一 教授の研究室が企画・ 運営する「利用者参加 型ものづくり」ワーク ショップが六日から八 日まで、同社で行われ た。「諏訪産業集積研 究センターII S I A R C (サイアーク)」や 同会に加盟する諏訪東 京理科大学、東京工業 大学などの研究室が協 力。喜多研究室の学生 約十人が、与えられ たものづくりではな く、さまざまな利用者 の視点や欲求からわき 出すものづくりの本 質を体験的に追究し た。

諏訪地域の工業集積 と大学などの研究機関 をつなぐシンクタンク 「サイアーク」発足当 初から同研究室との交 流は続いており、「利 用者参加型ものづく

罪予防などもねらい、 関係両区が共同で整備 に着手することに。昨 年秋、西堀区はJR鉄

中央町三のコミュニ ティカフェ「ほっとサ ロン心と」で、八日か ら歌声喫茶「フオーク

青年団代をよのかえら せた。今後、歌声が響 く中央通りを目指し、 毎月第二日曜日午後定 期的に開催していく。

廻りの空き店舗を改装 してオープンさせ、夢 を共有する主婦五人と 運営している。これま で二階でコンサートや

か 聴音で中央通り 性化をの願いを込め 企画した。 会場では、シンガ ソングライターの岡



自転車をさまざまに「いじって」課題解決に向けた形を模索する学生ら

り」として、学生自身 が利用者となって日々 の生活の中から発想し たものづくりを、地域

の中小企業が試作品で 形にしていこうという関 係。昨年は傘をテーマ にワークショップを行 い、今回は複数の大学 がひしめく京都市内や 京大の学内が、学生ら の自転車だらけで大変 な状態になっている。 という野外研究から展 開し、「自転車で京都 の町と大学を救え！」 をテーマに据えた。

ルなものの方がで るようにならないと 本当に社会に必要な のはできない。今のこ 本は高度なものづく の技術はあるが、何 つくればいいのか分 ないという状況」と 望みから生まれま 物のづくりの本質が 手足を動かしてもの どの大切さに触れた。

初日に京大での現状 報告を踏まえ、同研究 室に東工大、信州大、 諏訪東京理科大の学生 も加わって、さまざま なアイデアを自由に 出した。二日目を降 は用意した自転車と実 際に向き合い、課題解 決に向けた自分たちの アイデアが実現できる かを模索。学生たちは 寒空の下、さまざまな 工具を手に自転車を解 体したり、ハンドルの 向きを変えて最小限の 駐輪スペースを検討す るなど、「京都の町と 京大を救う」ために必 要な自転車の形を、少 しずつ描いていった。

喜多教授は「机上の 空論という言葉は真 理。机の上だけで考え るのではなく、トータ 予定している。

同ワークショップは 今後、岡谷工業高校 の三次元CADを使っ たものづくりの見学も